

私にとっての夏合宿 — 20才の夏 —

3年 金谷 健

〈プロローグ〉

7月28日、早朝。私は、さまざまな想いを胸に青森駅から弘前駅へと向かった。15日間ばかりで走った北海道、走ることが、旅することがどんなに素晴らしいことなのかを、マザマザと思ひ知らせられたツーリングであった。私はひとりであったが、それ故に孤独ではなかったような気がする……。さあ、これから2週間、なにが待っているのか。かきつ言えることは、それは私にとって今までの合宿とはかなり違った色まいのものになるであろうこと。つまり今までの合宿では、行動の「判断者」が「誰か他の人」であり、グータラ人間たる私はそれに乗っかっていただけに対し、今回は私自身が「判断者」でなるからだ。これを快感をもって受けとめるか、ダルイものと感じるのか……。

ともかく列車は弘前駅に着いた。曾我部、吉田、(小野)、高橋、永見、面口、渡辺、そして私の夏合宿がここから始まるのだ。(小野は途中参加)

〈最初の3日は……〉

弘前から^北鱒ヶ沢、十三湖と走っていくにつれ奇妙な気分になっていった。

「オシは今、本当に『みんな』と走っているのか？」

考えてみれば当然のこと。オシは、高橋たち1年生のことは何も

知らないのだから。

「こいつら、何がうれしくて東北まで来てオレと、しょに走って
いるんだろう？」

そんな素朴な疑問がわいてきた。

3日目は、津軽半島の先端である竜飛崎でキャンプした。この
ころから、なんとなく打ちとけてきたように思える。後で1年生に、
「竜飛で売店の女の子とニヤニヤして話している金谷さんを見て
から、合宿が楽しくなり、リラックスしてきた。」

という、非常に偏見に満ちたことを言われたが、ともかくどんな
ふうにでもいいから、「打ちとけて」きたのはいい事だ。夜、竜
飛崎の灯台の近くで、西口や吉田、渡辺などから、彼らのさまざま
な「体験」もウツウツと聞けたのは更によかった。

〈こころでひと休み……〉

何故か、旅における「出逢い」などという「^めめしい」ことを
書きもくなくなった。もっとも、夏の夜、ムサウルニイカロウドモが
星でも見ながら語りまうのはスバラシイなんぞ言うのも、なんか
テシクサク、そういうものを求めて旅に出る、合宿に出るとい
うのに対して、私は99%共鳴しながら、残り1%でも、てそれをせ
せら笑いたくなるのが正直な所持です。

私は旅に出ると社交的になれるような気がする。その根底には
「旅の恥はかき捨て」的意識——つまり、その場での自分の行動
は旅を終えてから、好むと好まざるにかかわらず帰らねばなら

ない「生活の場」にかがいては来ないという確信からくる、自分の言動に対するせえ？しかし自分ではそれをいい意味で使っていると思っっている——と、それと表裏一体となっているものだが、日常生活における自分の非社交的態度——特に未知の人間に対して自分を閉じている、なかなか「自分の世界」を拡大しようとならない保守的傾向——に対する1%の反発心との、二つがあると考えている。

それから、そこから生じる「出逢い」——土地の人の時もある、同じ旅人の時もあるだろう。——には、ある意味で生活の臭いがない。つまり互いに話しても仕方ないという部分をかなり持った上で接している。しかしそれは反面、快楽であるし、逆に日常生活では話しても仕方ないと思っっているようなことが話せるという面もある。

やはり旅において、大自然の中、見知らぬ人との語り合いの中で人間は、つかの間の「自然への復帰」をなしとげている、そしてげられると思っっているのだろう。

くまどめ

話がややこしくな、たので、二二で合宿を統括してしまいたい。

①やはり、集団行動の「判断」が最終的に私に求められた。それは、最初快感、したいにダル感……。しかし、ある判断をする場合の発想を、

「どうしたらオレ自身が楽しいか？」

たなく、

「どうしたら、オしもみんなも楽しいか？」

に変えていく——それは「大人」になるための条件だと思われ、大げさに言えば、みんながこう考えていくなかで、社会はよくなつていくと思う——それを求めてこれ、それが体が少しはわかってきたことが、非常によかった。

②走るという面でも得たものは大きい。ひとつは、以前のオシのように、15分～30分に1度休むのでなく、1時間に1度くらいのが距離も伸び、行動範囲が広がり、時間的余裕もできることが身にしみたこと。もうひとつは、ハダ平アスビレーラインをコンストップでのぼれて、苦しくてもがマンすればオシたつてのぼれるんだという、坂とか峠に対する自信がついたことだ。

③ほとんど毎晩のように酒が入り、自然と心が開かれてきたようでよかった。私自身は酒をあまり好まないが、キャンプ、夜、星空とくれば酒がないとおかしい。それに下宿とか飲み屋よりも夜空のもと、大自然にいたかかれて飲まれるのが、酒たっとうれしいでしょうよ……。 (系冬)

